

令和5（2023）年度事業報告書

（2023年4月1日から2024年3月31日まで）

特定非営利活動法人 女性人権機構

I 令和5年度の総括

令和4年度に再出発した（特非）女性人権機構（以下、女性人権機構）は令和5年度に、2年目の活動を本格化した。その中心課題は「女性の政治参加」。令和5年9月の読書会を皮切りに、年度末にシンポジウムを開催し、課題について深く掘り下げた。更に、令和4年度開催のシンポジウム講演の書籍化を行った。これは個別のイベントの枠を超えて、女性人権機構の活動を広く知ってもらう機会となった。また、昨年度に立ち上げたホームページも稼働を開始し、一般の方々との双方向のコミュニケーションが可能となった。

II 事業の実施に関する事項

（1）国内外の女性の人権及び女性に対する暴力等に関する国際会議、シンポジウム等の開催及び協力に関する事業

① 読書会「著者が語る『さらば、男性政治』の読み方」

読書会では著者を迎え、女性の政治参加を阻んでいるものは何か、その中で女性が今考えること、なすべきことは何か、議論を行った。

- ・ 日時：令和5年9月19日（19時～20時30分）
- ・ 対象：一般市民、関係諸団体、学術関係者、メディア
- ・ 方法：オンライン方式・無料
- ・ シンポジスト：三浦まり氏（上智大学法学部教授、（一社）パリテ・アカデミー共同代表）
- ・ モデレーター：櫻井彩乃氏（内閣府男女共同参画推進連携会議有識者議員）
- ・ 参加者：約40名（申込者59名）
- ・ 費用：79千円

② シンポジウム「『クオータがもたらす新しい政治～効果の検証』出版を記念して～女性が変わる世界の政治」

既にクオータ制を導入している各国の背景、導入による社会的な変化や今後の課題を学び、今後の日本のクオータ制導入への議論に資するものとなった。

- ・ 日時：令和6年3月3日（14時～16時）
- ・ 対象：一般市民、関係諸団体、学術関係者、メディア
- ・ 方法：オンライン方式・無料
- ・ シンポジスト：王貞月氏（西南学院大学非常勤講師（台湾担当）
武田宏子氏（名古屋大学大学院法学研究科教授）（英国担当）
杉山知子氏（愛知学院大学総合政策学部教授）（アルゼンチン担当）

第1号議案

- ・ コメンテーター：小川有美氏（立教大学法学部教授）
- ・ モデレーター：三浦まり氏（上智大学法学部教授、（一社）パリテ・アカデミー共同代表）
- ・ 参加者：約60名（申込者118名）
- ・ 費用：145千円

(2) 国内外の人権及び女性に対する暴力等に関する広報啓発事業

① 書籍化事業「どうする、日本のジェンダー平等戦略」（令和5年11月刊）（信山社刊）

令和4年度開催のシンポジウム「どうする、日本のジェンダー平等戦略」の講演録の書籍化を行った。一般書店での販売に加えて、男女共同参画センター（全国200か所）に書籍を寄贈し、より広く問題提起を図った。

同時に、女性人権機構を紹介するパンフレット（B5/4P）を作成し、書籍とともに発送し、女性人権機構の広報を行った。

- ・ 流通：信山社販路により一般書店/男女共同参画センター（200か所）/関係する講師/会員
- ・ 費用：611千円

② ホームページの充実

令和4年度2月にリリースした女性人権機構のホームページの運用を開始し、女性人権機構からイベント情報等をお知らせすると同時に、一般の方々から、「お問い合わせ」や「会員希望」等の、双方向のコミュニケーションを図った。今後は一般の人々からわかりやすい、使いやすいフレームワークの見直し等、更なる充実を行う。

- ・ 更新回数：26回（内女性人権機構に関するもの12回）
- ・ 費用：380千円